

令和元年度多職種連携推進・研修部会活動報告

1. 合同研修会の実施について

- ・令和元年度は、「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」をテーマとし、訪問看護・訪問リハビリテーション事業者連絡会議と武蔵野市医師会の協力をいただき実施した。
- ・ACPについて事前に研修会を行い、研修会に参加した方が合同研修会に参加した。
- ・合同研修会は提示された2つの症例を通してグループワークを行い、最後に各グループ毎に発表を行った。グループワークの課題を通してそれぞれの立場を理解し、医療・介護関係者の相談できる関係づくりを目指した。
- ・多職種の連携について、当日と3か月後にアンケートを行い、グループワークの効果について検証した。

<開催概要>

○研修会

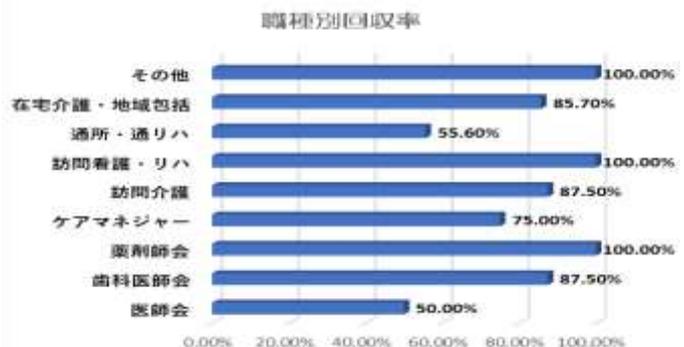
対 象	在宅医療・介護連携推進協議会を構成する団体から推薦された者
日 時	令和元年9月25日(水) 午後6時30分から8時30分まで
場 所	武蔵野市役所西棟8階 811会議室
内容等	角田ますみ氏（杏林大学准教授）によるACPについての講義

○合同研修会

対 象	事前の研修を受け、在宅医療・介護連携推進協議会を構成する団体から推薦された者
日 時	令和元年10月10日(木) 午後7時から9時まで
場 所	武蔵野市役所西棟8階 811会議室
内容等	グループワーク（9名×9グループ、5名欠席）76名参加

2. 3か月後のアンケートの結果

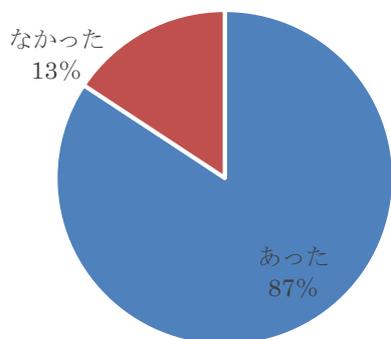
エントリー	81名
当日欠席	5名
参加実数	76名
アンケート回答	63名
未提出	13名
アンケート回答率	82.9%



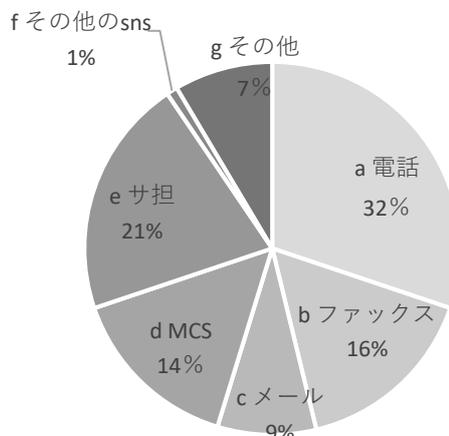
アンケート回収率は良好。回収率100%の職種もある。
 歯科医師会、薬剤師会は、多職種連携・研修部会の研修担当の活動から連携への関心度が高まった。

<3か月間の多職種連携推進・研修部会との連携>

3か月間の連携の有無

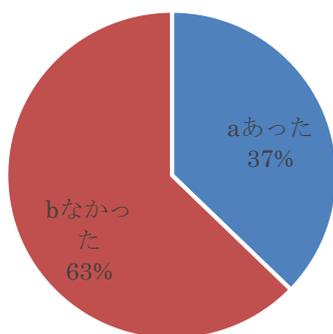


連絡手段

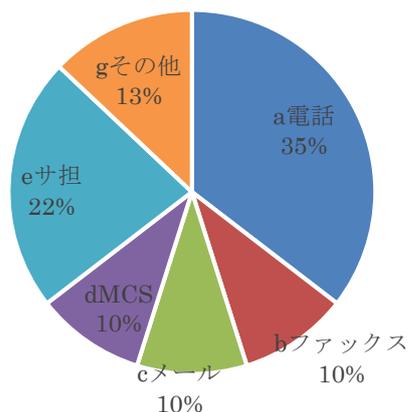


<ACPの連携について>

3か月間のACPの連携の有無



連絡手段



<3か月後アンケートの結果について>

- ACPに限らず連携の核となっているケアマネジャー、医師、訪問看護が中心となって連携を取る事が多い。
- 手段としてはACPに限らず電話が多い。
- ACPはタイミングが重要となるので、短期間では扱う機会も限られていた。
- 研修で学んだことは、所属事業所を中心に周知し、職種としてエンディングノートの出前講座を計画するところもあった。
- 研修後はACPを普段から気にするようになったが、継続して学びたい要望がある。

<参加者の感想>

- ACPに関して、常に気にするようになりました。
- 市内の関係者の方の顔がわかったことで、今後相談連絡がしやすくなった気がする。
- 今後もACPにかかわる研修の継続を希望いたします。

3 来年度に向けて

<テーマについて>

- ・ACPについてもう一年取り組みたい。(毎年テーマを変えなくても良いのでは…)
- ・病院の機能についてはアンケートで要望が多かったが、市民セミナー等で扱う。

<研修の進め方について>

課題

- ・グループワークは好評であるが、各団体から出られる人数に制限があり、多職種連携のすそ野を広げるためには限界がある。
- ・グループワークに出ない人たちはどう思っているのか知ることができない。
→ACPがどれだけ浸透しているのか分からない。

提案

- ・アンケート調査を各職種に行い、その結果を発表・ディスカッションを行う。
- ・職種間や職種内の温度差を調査する事で全体の底上げを図る。